

みんなで作ろう!! 笑顔が輝く地域のしくみ

第2次田上町地域福祉活動計画

(令和3年～令和7年度)



田上町地域福祉活動計画策定委員会
社会福祉法人 田上町社会福祉協議会





はじめに

社会福祉法に於いて「地域福祉の推進」が掲げられ、その中核的な団体と位置づけられている社会福祉協議会としては、住民主体の地域福祉の推進に努めると共に、計画的・継続的な事業・活動の展開を図る必要があります。

田上町社会福祉協議会では平成28年『第1次田上町地域福祉活動計画』を策定し、基本理念として「寄り添い支え合う 笑顔の輝くまち たがみ」を掲げ、様々な活動を展開して参りました。ただ、この5年間で地域を取り巻く環境も変わり、課題も多様化しています。こうした現状を踏まえ、地域福祉をさらに発展的に推進し、かつ新たな課題への対応を図っていくべく、「寄り添い支え合う 笑顔の輝くまち たがみ」の理念を継続し「第2次田上町地域福祉活動計画」を策定いたしました。計画の実施にあたりましては住民の皆様が主体となり、地域福祉の担い手となって活動していくことができるよう、更なる地域福祉活動の推進に取り組んで参ります。

「第2次田上町地域福祉活動計画」策定にあたり、新潟医療福祉大学の青木先生をはじめ、各方面からの13名の委員の方々には様々な意見を頂戴し策定いただきました。改めて御礼と感謝を申し上げます。

令和3年8月

社会福祉法人 田上町社会福祉協議会
会長 高橋 勝之



目 次

第1章 田上町地域福祉活動計画の策定にあたって

1. 地域福祉活動計画ってどんな計画？	1 ページ
2. 第1次活動計画から第2次活動計画へ	1 ページ
3. 地域福祉活動計画の位置付け	1 ページ
4. 計画の期間はいつからいつまで？	1 ページ
5. 町民の皆さんと一緒に作った計画です	2 ページ
6. 町民の皆さんから挙がった課題とは	2 ページ
7. この計画は町民の皆さん一人ひとりが主役です	3 ページ
8. 町民の皆さんが行動するイメージ図	3 ページ

第2章 第1次活動計画の振り返り・評価 4 ページ

第3章 5年後の輝く田上へ

1. 基本理念	5 ページ
2. 計画の体系	5 ページ
3. 基本目標・実施プラン	6 ページ
基本目標1【顔が見える地域づくり】	6 ページ
・実施プラン1 顔が見える関係、挨拶を交わす関係になろう	7 ページ
・実施プラン2 子育て環境を充実させよう	8 ページ
・実施プラン3 障がいへの理解を深めよう	9 ページ
・実施プラン4 集える場を充実させよう	10 ページ
・実施プラン5 自主防災意識を高めよう	11 ページ
基本目標2【みんなで支え合う地域づくり】	12 ページ
・実施プラン6 困りごとを地域で支え合おう	13 ページ
・実施プラン7 福祉の担い手・ボランティアを増やそう	14 ページ

第4章 資 料

1. 計画づくりの体制	15 ページ
2. 当事者関係団体ヒアリング、各種アンケート調査まとめ	16 ページ
3. 策定委員名簿	20 ページ



第1章 田上町地域福祉活動計画の策定にあたって

1. 地域福祉活動計画ってどんな計画？

田上町地域福祉活動計画とは、町民の皆さんと田上町社会福祉協議会が地域で暮らす私たちの生活での困りごとや、生活に望むことをどのように解決すればよいかを考え実践するために作る計画です。この計画は、一人ひとりが自分らしく生き生きと暮らすことを目指す、町民の皆さんが主役の民間の計画です。

2. 第1次活動計画から第2次活動計画へ

田上町では、平成28年に「田上町地域福祉活動計画（以下、「第1次活動計画」という。）」を策定し、「寄り添い支え合う 笑顔の輝くまち たがみ」を基本理念に様々な活動を展開してきました。しかし、この間にも少子高齢化、地域の繋がりの希薄化、さらには生活困窮者の問題等、課題は複雑化しています。

田上町では、町民の生活基盤（物的、社会的、経済的、文化的）を整える地域活動を中心にさまざまな取り組みが行われていますが、人手不足、参加者不足、高齢者の増加など課題は尽きない中、第1次活動計画を見直し、今後の地域づくりについて考える必要があります。

「第2次田上町地域福祉活動計画（以下、「第2次活動計画」という。）」は、新たな課題への対応を行いながら、誰もが安心して暮らせることを目的として策定しました。

3. 地域福祉活動計画の位置付け

田上町では平成29年3月に「第5次田上町総合計画（基本構想・後期基本計画）」が策定されています。その計画のテーマとして、「やさしさと豊かさでキラリと輝くまち田上」が掲げられていますが、これらを達成していくためには地域力の推進が不可欠であります。田上町と田上町社会福祉協議会は地域の課題を把握、解決に向けて地域福祉を推進するという共通の目的があります。関係する事項について整合性、関連性を持ちながら、町民や関係機関と協働し、田上町の地域福祉を推進する計画が「第2次活動計画」です。

4. 計画の期間はいつからいつまで？

この計画は、令和3年度から令和7年度までの5年間としますが、途中で見直しながら実施していきます。

5. 町民の皆さんと一緒に作った計画です

第2次活動計画を作るため、策定委員会を立ち上げ、町民の皆さんの中から13名を選出しました。それぞれの立場からご意見を頂き、また各種団体へのヒアリングや歳末たすけあい訪問対象者、障がい者支援センター利用者（保護者）、子育てサロン参加者（保護者）等、各種アンケートにより課題の分析を行ない、計画が策定されました。

6. 町民の皆さんから挙がった課題とは

第2次活動計画を策定するにあたり、団体ヒアリング、アンケートを通して、以下のような共通課題が明らかになりました。

課題1 顔が見える関係性の構築

さまざまな生活課題を解決するために、地域の繋がりが必要ですが、現状では近所付き合いが希薄化しており、日頃から顔の見える関係を築くことが重要となってきます。

《主な意見》

- 近所、地域住民の関係性が薄れている。繋がりを必要と感じているが、何かきっかけがないと集まる人は少ない。
- 平時の顔の見える関係がないので、いざという時に誰がいるのか分からない。
- 日中、夜間など状況に応じた避難方法や要援護者の支援が不明瞭。
- 子育て支援において、子どもだけでなく、子どもを取り巻く環境に対しての支援が必要。
- 障がい者と健常者の交流がほとんど無いため、障がい者と健常者の相互の意見が醸成されにくい。
- 介護者や障がい者など、同じ悩みを抱えた方達の情報交換の場がない。誰もが気軽に集まれる場が少ない。

課題2 住民同士の助け合い

地域の困りごとが多様化している中、困りごとを自分ごととして捉え、お互い様の意識を持ち、誰もが安心してその地域で暮らしていくため、住民同士で支え合うことが大切です。

《主な意見》

- 除雪、ゴミ出し、買い物、移動・通院等、個々の困りごとが多様。
- 免許返納で行動範囲が狭くなった。
- 地域に支え合う仕組みがあると良い。
- ボランティア活動において、きっかけの場が少ないので、活躍する場があると良い。
- 町で講座を開催すると70歳代の参加が多く、活躍する場があると良い。
- 無償の考えだけではボランティアは普及しない。

7. この計画は町民の皆さん一人ひとりが主役です

この計画における主体と対象は、町民はもちろんのこと、町内のお店、企業、学校、団体等、田上町に関わる全ての人達です。少子高齢化、さまざまな問題が深刻となっている中、全ての町民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、町民の主体的な意識、参加により進めていくことが大切です。

8. 町民の皆さんが行動するイメージ図

皆さんで **ふくし** の花を咲かせましょう

寄り添い支え合う 笑顔の輝くまち たがみ

ふ だんの
く らしの
し あわせ

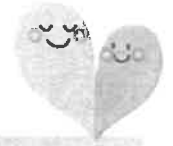


私達(町民)ができること

- 近所で人とあつたら
挨拶をしましょう
- 子どもを見かけたら
挨拶しましょう
- 障がいがある方にも、声掛けをし、
地域の行事やサロンなどに
誘ってみましょう
- 町や地区の防災訓練に
参加しましょう
- 自分の身は自分で
守ることを
意識しましょう
- 各種配布物が来たら
目を通しましょう
- お互い様の意識を
心がけましょう
- 大人は子どもたちの
手本となるよう、
日頃から
心掛けましょう
- お互い様の意識を
心がけましょう

町・社協が取り組むこと

- ・ ながら見守り活動の推進
- ・ 集いの場、通いの場の推進
- ・ 関係機関との連携、情報共有
- ・ 子育てサロンの周知徹底・充実
- ・ 災害ボランティアセンターの体制強化
- ・ 福祉教育の醸成
- ・ 障がい理解の推進
- ・ 助け合い、支え合い活動の推進
- ・ マンパワーの育成



第2章 第1次活動計画の振り返り・評価

第1次活動計画は、田上町として初めて策定する地域福祉における町民の行動計画であり、町民アンケート、中学生アンケート、地域懇談会、団体ヒアリング等を行い、町民の皆さんの声や思いを聴きながら、策定いたしました。基本目標に、「助け合い」「語り合い」「みんなが出会える」「学び育む」「地域に根差す」の5つのキーワードを掲げ、目標達成に向けて取り組んできました。

令和元年11月に第1次活動計画を評価・検証し、第2次活動計画に繋げるため、生活支援体制整備推進協議体*に依頼し、評価が行われました。それぞれの取り組みに成果があったものの達成や解決までには至らず、特に仕組みづくりや設置等に関する実施プランでは、引き続き取り組むべき課題であると評価されました。

第2次活動計画では、第1次活動計画の課題や、新たに挙がった課題をそれぞれの実施プランに包含し、「顔が見える」「みんなで支え合う」の基本目標を掲げて、取り組むこととしました。

*介護保険制度の事業の一つで、生活支援サービスの体制整備に向けて、多様な主体間の連携、協働による資源開発等を推進するための協議体。



第3章 5年後の輝く田上へ



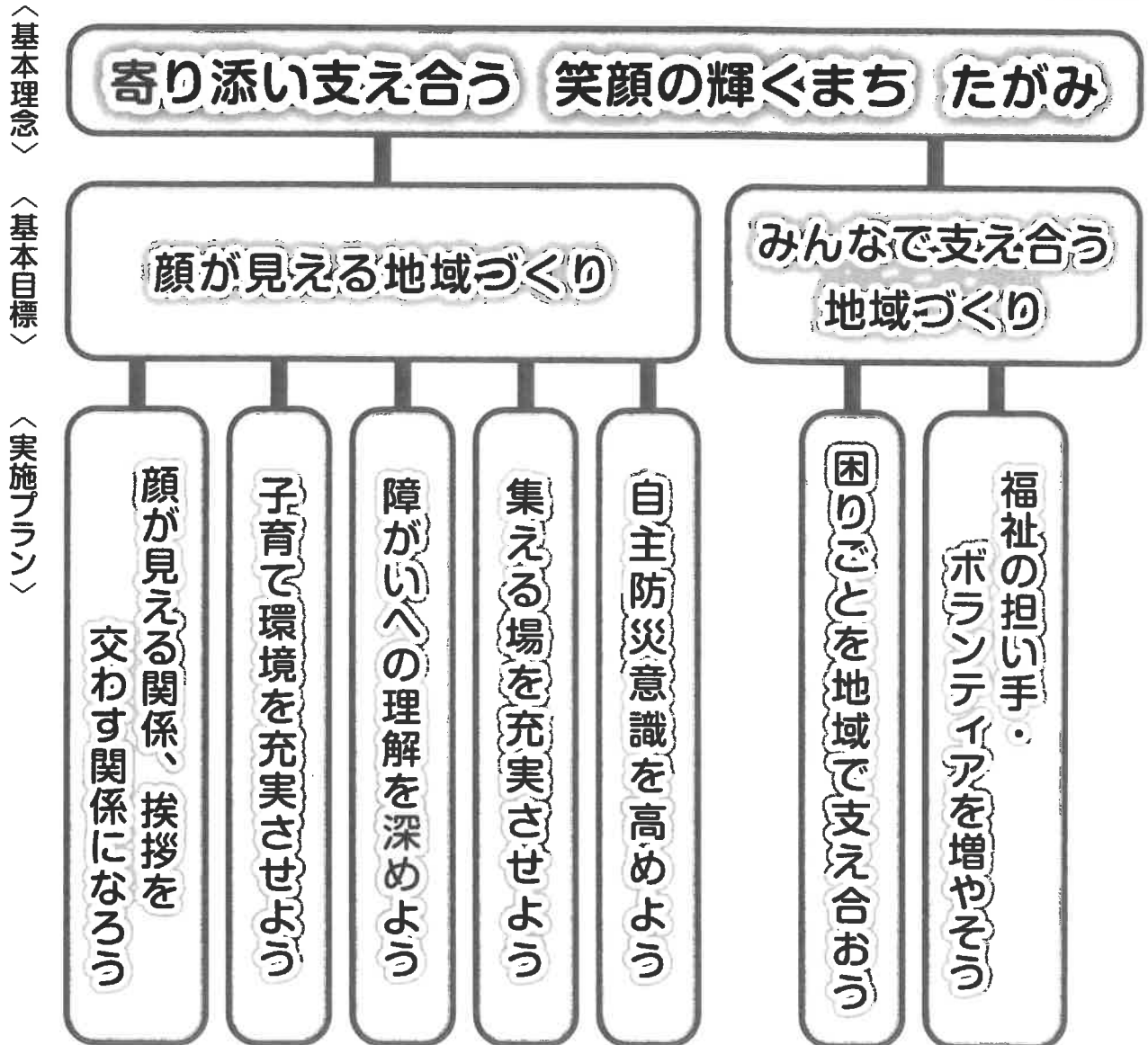
1. 基本理念

『寄り添い支え合う 笑顔の輝くまち たがみ』

第1次活動計画（平成28年度～令和2年度）から、「寄り添い支え合う 笑顔の輝くまち たがみ」を基本理念とし、その実現に向けて地域福祉活動を推進してきました。

今後さらに少子高齢化、人口減少が進む中で、町民一人ひとりが地域の一員として、安心して暮らせる田上町の実現に向けて、第2次活動計画においても、引き続きこの理念を掲げて取り組みます。

2. 計画の体系



3. 基本目標・実施プラン

基本目標1 顔が見える地域づくり

さまざまな生活課題を解決するために、地域の繋がりが必要ですが、近所付き合いが希薄化する中で、日頃から顔の見える関係、挨拶する関係は大切です。隣近所の異変に気づきにくくなっている今、普段の暮らしの中で「ちょっと気にかける」を意識するだけで、住み慣れた地域で安心して暮らせるきっかけとなります。

【団体ヒアリング・各種アンケートから見えてきたもの】

- 近所、地域住民の関係性が薄れている。繋がりを必要と感じているが、何かきっかけがないと集まる人は少ない。
- 平時の顔の見える関係がないので、いざという時に誰がいるのか分からない。
- 日中、夜間など状況に応じた避難方法や要援護者の支援が不明瞭。
- 子育て支援において、子どもだけでなく、子どもを取り巻く環境に対しての支援が必要。
- 障がい者に対する理解が低い。障がいという少数分野のため、意見が反映されにくい。
- 介護者や障がい者など、同じ悩みを抱えた方達の情報交換の場がない。誰もが気軽に集まれる場が少ない。



実施プラン1 顔が見える関係、挨拶を交わす関係になろう

近所、地域住民との関係性が薄れている中、自分の生活のことで精一杯で、隣のことを見ている余裕がないと思いながらも、繋がり大切さや必要性を感じている人は多くいます。またプライバシーの意識が高まり、支援が必要であっても周囲が気付きにくい状況です。まずは人と人との繋がり第一歩、挨拶を誰にでも積極的に行いましょう。

《私達（町民）ができること》

🌸 近所で人と会ったら挨拶をしましょう。

- ・困っている人がいたら声を掛けてみましょう。
- ・地域や近所で困りごとに気付いたら、その気付きを区長や民生委員、町、社協等に繋げましょう。
- ・地域の活動に参加してみましょう。
- ・地域の行事などを集まるきっかけにしましょう。
- ・困っている人とその困りごとの解決のために地域の人と相談し繋がりを持ちましょう。
- ・一人暮らしや高齢者世帯への回覧板は手渡しして見守りも兼ねましょう。
- ・定年退職後は今まで培ってきた経験や知識を地域での活動に活かしましょう。
- ・自治会の行事は誰でも集える場づくりを心がけましょう。

※ 🌸 マークは特に日頃から意識して取り組んでみましょう。

**5年後、こんな地域を
目指そう!**

**「隣近所の人と笑顔で
挨拶し合える仲」**

《町・社協が取り組むこと》

- ・ながら見守り活動*1を推進します。
- ・他の地域で実施している地区行事や取り組みの紹介、場づくりの提案を行います。

*1 日常生活（散歩、買い物、ゴミ出し等）、仕事での外回り中、近所の困りごとや異変に気付いたら、区長、民生委員、町等に繋げる活動。

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ながら見守り活動の推進	実施				
		目標：登録数 年間5件ずつ			
他地域での取り組みの情報提供	実施 (短期)				

実施プラン2 子育て環境を充実させよう

町内には子育てサロンと子育て支援センターの2つの交流の場がありますが、子育てサロンはPR不足となっています。子育てをする方は孤独感やストレス等を抱えることもあり、そのような方達への支援に目が向いていないという現状もあります。子どもの支援だけでなく、子育て中の親も含めた子どもを取り巻く環境に対する支援が大切です。子どもは地域の宝です。自分の子や孫だけでなく、「田上の子」を育てるという意識を持ちましょう。

《私達（町民）ができること》

🌸 子どもを見かけたら挨拶をしましょう。

- ・地域の行事に参加して子どもと触れ合いましょう。
- ・自治会行事で、子ども達が参加出来るイベントを継続していきましょう。
- ・地域の伝統文化や昔の遊びを伝えましょう。
- ・登下校の見守り活動に参加してみましょう。

※ 🌸 マークは特に日頃から意識して取り組んでみましょう。

5年後、こんな地域を
目指そう!

「皆が田上の子を育てる
気持ちを持っている。」

《町・社協が取り組むこと》

- ・地域と学校、関係機関の連携強化、情報共有を行い、子どもと親の支援に努めます。
- ・子育て支援センター*2や子育てサロン*3等、子育てに携わる人達が関われる場所の提供と、広く利用してもらうため情報発信に努めます。
- ・子育てサロンを利用してもらう工夫や、パパも参加できる工夫等、改善を行います。
- ・子育て世代包括支援センター「すくさぼたがみっこ*4」を設置し、子育て支援の強化を図ります。

*2 竹の友幼稚園内にあり、親子のための遊び場の提供や親同士の情報交換、仲間づくりの場の提供を行っており、月～金曜日開催しています。

*3 子育て中の親子が気軽に参加して自由に遊んだりおしゃべりしたり、子育ての情報交換ができるサロンで月2回開催しています。

*4 令和3年3月1日開設の子育て世代包括支援センターの名称。妊娠期から子育て期まで総合相談を受け付けます。

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
地域と各機関の連携、情報共有	実施	→			
子育てサロンの周知徹底・充実	実施	→ 目標：毎月広報媒体を使って情報発信を行う			
すくさぼたがみっこの活用	実施	→			

実施プラン3 障がいへの理解を深めよう

地域にはさまざまな特性や個性を持っている方々があり、みんな一緒に暮らしています。障がいを持つ子の親からは、「子どもの将来のことが心配。」「親が年をとっても安心して暮らせる環境が必要。」等の声が聞かれました。しかしそれらの理解がまだまだ十分とは言えず、情報も多くありません。誰もが安心して暮らせるよう、理解を深めましょう。

《私達（町民）ができること》

★ 声を掛けて地域の行事やサロンなどに誘ってみましょう。

- ・ 区別なく挨拶や声掛けを行い、コミュニケーションを図りましょう。
- ・ 障がいを抱えている方の立場になって物事を考えてみよう。
- ・ 誰もが必要な支援を得やすいように、日頃から気づきの意識を持ちましょう。

※ ★ マークは特に日頃から意識して取り組んでみましょう。

5年後、こんな地域を目指そう!

「みんな一緒に
行事に参加している。」

《町・社協が取り組むこと》

- ・ 社協出前講座やボランティアチャレンジスクール等の講座、福祉まつり等のイベントを活用し、障がいの理解を促します。
- ・ 情報発信やボランティアの普及に努めます。
- ・ 療育相談*5、ひまわり学級*6を活用し、早期発見、早期支援を行います。
- ・ 障がい者支援センター*7、相談支援事業*8を推進し、在宅サービスの充実を図ります。
- ・ 障がい者団体の支援や障がい者支援センターと連携し、障がい者組織の育成と社会参加を促進します。
- ・ 災害時における障がい者用避難所の設置を働きかけます。

*5 早期に適切な療育上の指導を行い、療育施設及び療育ケアの紹介を行う場（三条保健所）。

*6 お子さんの身体の発達や心やことばの発達に心配がある方、お子さんとの関わり方に不安がある親子の会。

*7 障がい（知的・精神・身体）のある18歳以上の方が利用し、利用者の状態に合わせて、生活介護と就労継続支援B型の2種類のサービスを行っています。

*8 福祉サービスの利用に関する相談や悩み、日常生活上の相談、就労や住居等、専門の職員が相談に応じ対応します。

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
障がい理解の推進	実施	 目標：各種講座等、年1回以上開催			
既存サービス・組織の充実、活用	実施				
関係機関との連携、情報共有	実施				

実施プラン4 集える場を充実させよう

誰でも気軽に集まれる場や、生きがいや健康づくりの場、介護者や障がい者など、同じ悩みを抱えた方達の情報交換の場が少ない現状です。介護や障がいに関わっている人達はどのような支援があるか分からないとの声も聞かれました。当事者同士、話すことで問題の解決に繋がったり、ストレスが軽減されます。

《私達（町民）ができること》

★ 各種配布物が届いたら目を通しましょう。

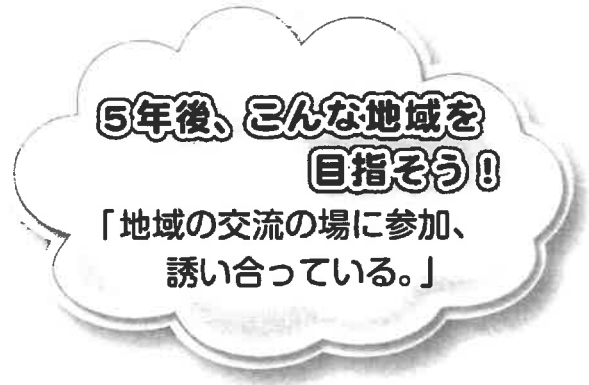
- ・ オレンジカフェ*⁹に参加してみましよう。
- ・ いきいきサロン*¹⁰に参加してみましよう。
- ・ 老人クラブ活動*¹¹に参加してみましよう。
- ・ 情報交換の場があったら参加したり友人を誘ってみましよう。
- ・ 男性も積極的に集いの場に参加してみましよう。
- ・ 空き家など地域にある資源を活用してみましよう。

※ ★ マークは特に日頃から意識して取り組んでみましよう。

* 9 認知症の方やそのご家族、地域の方や専門家などが、自由に参加・交流できる集いの場。

* 10 地域住民の誰もが参加、交流できる場。町内15ヶ所で開催しています。（月1～2回開催）

* 11 地域を基盤とした概ね60歳以上の高齢者が自主的に集まって活動する組織。生きがいや健康づくり活動を行っています。



《町・社協が取り組むこと》

- ・ 施設の協力をあおぎながら、オレンジカフェの支援と普及に努めます。
- ・ 介護者の情報交換の場、介護の方法を学ぶ場として社協出前講座等を推進します。
- ・ 既存のいきいきサロンのサポートや、集いの場の新規立ち上げを支援します。
- ・ 集いの場の一覧を作成、参加しやすいよう情報提供を行います。

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
集いの場、通いの場の推進	検討	目標：集いの場、新規1ヶ所立ち上げ			
既存事業の支援	実施				
地域資源の可視化と情報提供	実施（短期）				

実施プラン5 自主防災意識を高めよう

全43地区に自主防災組織があり、防災士*12を配置している地区もありますが、活用出来ている地区と活用出来ていない地区の格差があります。平時から災害時の避難マップ、場所を把握し、一人ひとりが災害に対しての意識、自分の身は自分で守ることの意識を高めましょう。

*12 “自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動を行う資格を持った人。

《私達（町民）ができること》

- 🌸 町や地区の防災訓練に参加しましょう。
- 🌸 自分の身は自分で守ることを意識しましょう。

- ・ 平時から災害時の避難マップを見て、場所を把握し、家族や近所の人と話し合しましょう。
- ・ 自宅周りの声掛けを必要とする方の確認をしておきましょう。
- ・ 各地区の自主防災組織体制の強化と防災士を活用しましょう。
- ・ 自治会の自主防災組織の整備、見直しを行きましょう。

※ 🌸 マークは特に日頃から意識して取り組んでみましょう。

5年後、こんな地域を
目指そう!

「自分自身の避難場所を
確認出来ている。」

《町・社協が取り組むこと》

- ・ 町全体の防災訓練の実施。定期的な開催への働きかけを行います。
- ・ 防災訓練を通じて災害ボランティアセンター*13の体制強化を行います。
- ・ 要援護者名簿*14の有効活用を検討します。

*13 災害発生時ボランティア活動を効率良く推進するため、社会福祉協議会を中心にボランティア活動に関わっている関係機関が協働して運営を行います。

*14 災害が発生したときに自ら避難することが困難な方などの情報を、ご本人の希望に基づき作成した名簿です。

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
町全体の防災訓練実施と、定期的な開催への働きかけ	実施	→			
災害ボランティアセンターの体制強化	実施	→ 目標：災害ボランティアセンター設置訓練の実施			
要援護者名簿の有効活用	実施	→			

基本目標2 みんなで支え合う地域づくり

地域の困りごとが多様化している中、困りごとを自分ごととして捉え、お互い様の意識を持ち、誰もが安心してその地域で暮らしていくため、住民同士で支え合うことが大切です。

【団体ヒアリング・各種アンケートから見えてきたもの】

- 除雪、ゴミ出し、買い物、移動・通院等、個々の困りごとが多様。
- 免許返納で行動範囲が狭くなった。
- 地域に支え合う仕組みがあると良い。
- ボランティア活動において、きっかけの場が少ないので、活躍する場があると良い。
- 町で講座を開催すると70歳代の参加が多く、活躍する場があると良い。
- 無償の考えだけではボランティアは普及しない。



実施プラン6 困りごとを地域で支え合おう

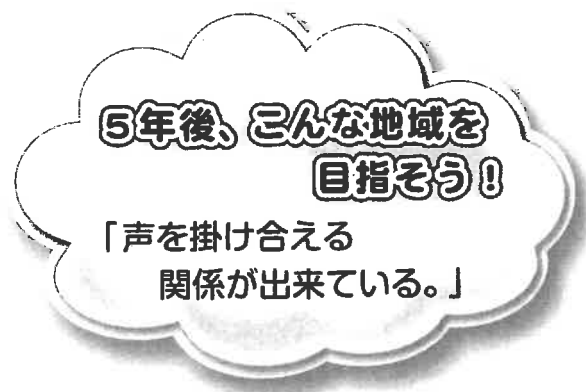
除雪、ゴミ出し、買い物、移動等、個々の困りごとが多様化しています。その課題に対して、「支える側」「支えられる側」に分かれるのではなく、お互い様の意識を持つことが大切であり、地域の問題を自分事と捉え、住民同士で解決に向けた検討や取り組みを行うことが重要です。

《私達（町民）ができること》

🌸 お互い様の意識を心がけましょう。

- ・近所で人と会ったら挨拶をしましょう。
- ・困っている人がいたら声を掛けてみましょう。
- ・地域の活動に積極的に参加しましょう。
- ・「困っている」「手伝って欲しい」と言える人を増やしましょう。

※🌸マークは特に日頃から意識して取り組んでみましょう。



《町・社協が取り組むこと》

- ・地域のたすけあい活動の普及に努めます。
- ・困りごとの吸い上げ、手助け出来る人へ繋ぐ仕組み作りの検討をします。
- ・共同募金の助成金や社協会費等の活用を行い、地域活動を支援します。

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
助け合い、支え合い活動の推進	実施	 目標：1ヶ所以上のたすけあい組織等の立ち上げ			
助成金の周知、活用	実施				



実施プラン7 福祉の担い手・ボランティアを増やそう

各種講座には多くの元気な方が参加していますが、その方々の経験を活かせる機会が少ないため、活躍出来る場が必要です。また、小さい時から福祉に触れ、ノーマライゼーション*15の意識を高めることも大切となります。少子高齢化、人口減少に対して、自分達の町は自分達で支える地域づくりが重要です。

*15 障がいのある人を特別視するのではなく、誰もが同じように地域で暮らしていけるようにしようという考え方。

《私達（町民）ができること》

★ 大人は子ども達の手本となるよう、日頃から心掛けましょう。

★ お互い様、おかげ様の気持ちを大切にしましょう。

- ・誰でも自分で出来るちょっとした活動を探してみましょう。
- ・地域の美化活動等、子どもにも参加を呼びかけ、みんなで取り組みましょう。
- ・家庭の中で感謝や思いやりの心を育てましょう。
- ・各種講座へ参加してみましょう。

※ ★ マークは特に日頃から意識して取り組んでみましょう。

5年後、こんな地域を
目指そう!

「誰もが思いやりの
気持ちを持っている。」




《町・社協が取り組むこと》

- ・ボランティアに関する講座等の開催、活動の情報発信を行い、ボランティアセンター*16の周知強化を行います。
- ・生活支援体制整備事業*17の推進を行います。
- ・学校地域コーディネーター*18と協力し、ボランティアや福祉体験の機会を作り、子どもの頃から福祉教育やボランティア意識を高めます。
- ・ボランティア同士の交流や情報共有・発信を行うなど、ボランティアの拠点となる部屋の設置を働きかけます。

*16 ボランティア情報の収集と発信、ボランティアコーディネート業務、地域活動の支援等を行います。

*17 介護保険制度事業の一つで、地域の多様な主体が協働し高齢者を支える仕組み作り。

*18 学校と地域との連携の促進、学校支援に係る情報収集、連絡及び調整を行う役割。

項 目	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
マンパワーの育成、 ボランティアセンターの強化	実施	 目標：ボランティア登録者 年間10名			
福祉教育の醸成	実施	 目標：年1回、町内の小・中学校や地域での福祉教育(体験)の実施			
ボランティア室設置への 働きかけ	検討				



第4章 資料

1. 計画づくりの体制

(1) 策定委員会

第2次活動計画を作るため、13名で構成されました。それぞれの立場からご意見を頂き、また各種アンケートにより課題の分析を行ない、計画が策定されました。

(2) プロセス

● 第1次活動計画の評価

● 各種アンケート調査

- ① 歳末たすけあい訪問（独居高齢者、高齢者世帯、障がい者等）対象者への困りごとアンケート
- ② 障がい者支援センター利用者（保護者）への心配ごとアンケート
- ③ 子育てサロンの参加者（保護者）へ子育てアンケート

● 団体ヒアリング

実施団体：9団体

調査団体名：田上町ボランティアセンター

田上町老人クラブ連合会

学校地域コーディネーター（田上町教育委員会）

田上町区長会

田上町商工会

田上町手をつなぐ育成会

田上町民生・児童委員協議会

田上町役場 保健福祉課

田上町社会福祉協議会

2. 当事者関係団体ヒアリング、各種アンケート調査まとめ

① 住民同士の助け合いについて

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・除雪、ゴミ出し、買い物、移動・通院等、個々の困りごとが多様。
- ・山田地区の買い物支援は良いことだが、取り組むにはハードルが高い（安全面、継続性）少額でもお金を取り、支え合う仕組みがあると良い。
- ・免許返納で行動範囲が狭くなった。
- ・タクシー券が足りない。

<1次計画の評価>

- ・困りごとを吸い上げ、地域や関係機関で共有できる仕組みづくりが必要。
- ・地域たすけあい事業を各地に普及させる。
- ・住民の主体的な地域福祉活動をより効果的に支援するための助成のあり方について検討。

② 顔が見える関係性について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・近所、地域住民の関係性が薄れている。自分のことで精一杯で、隣のことを見ている余裕がない。
- ・繋がりを必要と感じているが、何かきっかけがないと集まる人は少ない。
- ・平時の顔の見える関係がないので、いざという時に誰がいるのか分からない。
- ・地域の集まりで若いお母さん達とお話する会を企画したところ、「こういう所に参加しても良かったんですね」との意見があり、PRやきっかけがあれば参加する。

<1次計画の評価>

- ・各団体と連携を図り、活躍の場を提供し、地域づくりに繋げていくことが必要。

③ 自主防災体制について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・日中、夜間など状況に応じた避難方法や要援護者の支援が不明瞭。
- ・町内一斉防災訓練が必要。
- ・防災士を活かしきれていない。
- ・空き家を緊急的な避難場所として活用するのはどうか。
- ・個人情報ので、情報が得にくい。

<1次計画の評価>

- ・災害時のボランティアセンターの役割の周知や災害ボランティアに関する理解を深める必要がある。
- ・災害は点で終わらない。町や地区が連携、協働で取り組むべきで、防災訓練は各自治会で実施することも大事だが、町全体で実施することも大切である。
- ・ケアマネ連絡会議で避難者の優先順位を計画したが、情報共有が図られておらず、名簿を活かせなかった。名簿をオープンにしていけないと難しい。

④ 子育て支援について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・子育て支援についてPR不足。
- ・行き詰まった母親の息抜きの場など、親の支援に目が向いていない。
- ・学校から地域への依頼は来るが、地域から学校への提案はなかなか通らない。
- ・福祉＝高齢者 ではなく、福祉＝子育て にならないといけない。

<1次計画の評価>

- ・学校コーディネーターと連携すると良い。
- ・ファミリーサポートセンター設置希望の少数の意見に対して、解決に向けた対応策を検討する必要がある。

⑤ 障がい者に関する理解と支援について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・障がい者の方を特別視しない町になったら良い。小学生の頃から一緒に学習するなど、障がい者のいる生活が普通になったら良い。子どもは大人が思っているよりも障がい者との壁を感じない。
- ・子どもの将来が心配。
- ・親が年を取っても安心して暮らせる環境。
- ・買い物、通院等、自分で車を運転して移動出来ないことが不便な生活の大部分を占める。
- ・バスの運行数が少なく、バス停も少ない。病院の前にバス停が無いと歩けない人は不便。
- ・歩行が困難な人は駅の階段の上り下りが大変なため、エレベーターがないと不便。
- ・町内にベンチ等の休み場所がなく、目的地まで行くまで疲れてしまう。
- ・道路の幅が狭く、歩道がないところもあり怖い。
- ・道路に段差が多く、転倒しやすい。
- ・親の具合が良くない時、緊急的な一時預かりや泊まりがあると良い。
- ・親が年をとってきて、子どもの世話をすることも大変。

<1次計画の評価>

- ・地域住民に対する障がいの理解促進が必要。
- ・福祉避難所は常設的に設置するのは当たり前となっているが、計画にどこまで盛り込んでいけば良いかは町との協議が必要。

⑥ 集える場について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・在宅介護が増えているので、介護者の情報交換の場があると良い。
- ・地域で空き家が増えている。空き家を利用して集まる場所を作った市町村がある。

<1次計画の評価>

- ・認知症カフェの継続に向けて町内施設と連携する。

⑦ 福祉の担い手・ボランティアの育成について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・無償の考えだけではボランティアが普及しない。
- ・町で講座を開催すると70歳代の参加が多く、活躍する場があると良い。
- ・ボランティアについて、退職してからが地域貢献しやすいと思うが、退職した人にどう声を掛けたらいいかわからない。

<1次計画の評価>

- ・ボランティア確保について成果が出ていないのであれば改善が必要。
- ・学校や地域と連携し、福祉教育を進める必要がある。
- ・福祉出前講座の周知強化など広報活動や啓発活動を積極的に取り組む必要がある。

⑧ 関係機関の連携強化について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・個人情報の壁で、区長は情報を得にくいので、入院、入所などでいなくなる場合の情報は本人が届けるルールを作らないといけない。
- ・引きこもりの実態は把握しているが、今の体制では難しい。マンパワーが足りない。
- ・不登校の子どもに対して以前はケアする場所があったが、現在は不登校の情報が児童委員まで伝わらない。

<1次計画の評価>

- ・事業のすり合わせや地域福祉の取り組み等の連携が必要。
- ・町や社協だけでは解決出来ない課題に対し、サービスの開発や新たな仕組みづくりに取り組むにあたり、関係機関との連携や地域住民の理解・協力など必要に応じた働きかけが必要。

⑨ 情報提供の充実について

<ヒアリング、アンケート課題>

- ・インターネットを活用できない人への情報が乏しい。
- ・若い人達は地域の集まりに行っているのか分からなかった。受け取り手（若い人達）にうまく伝わっていない。
- ・介護をしている家族はどのような支援があるかわからない。行政はすぐホームページを見れば分かるという。
- ・子育て世代への情報発信が必要。色々な制度に対して、それを受けるためにはどうすればいいかわからない人が多い。

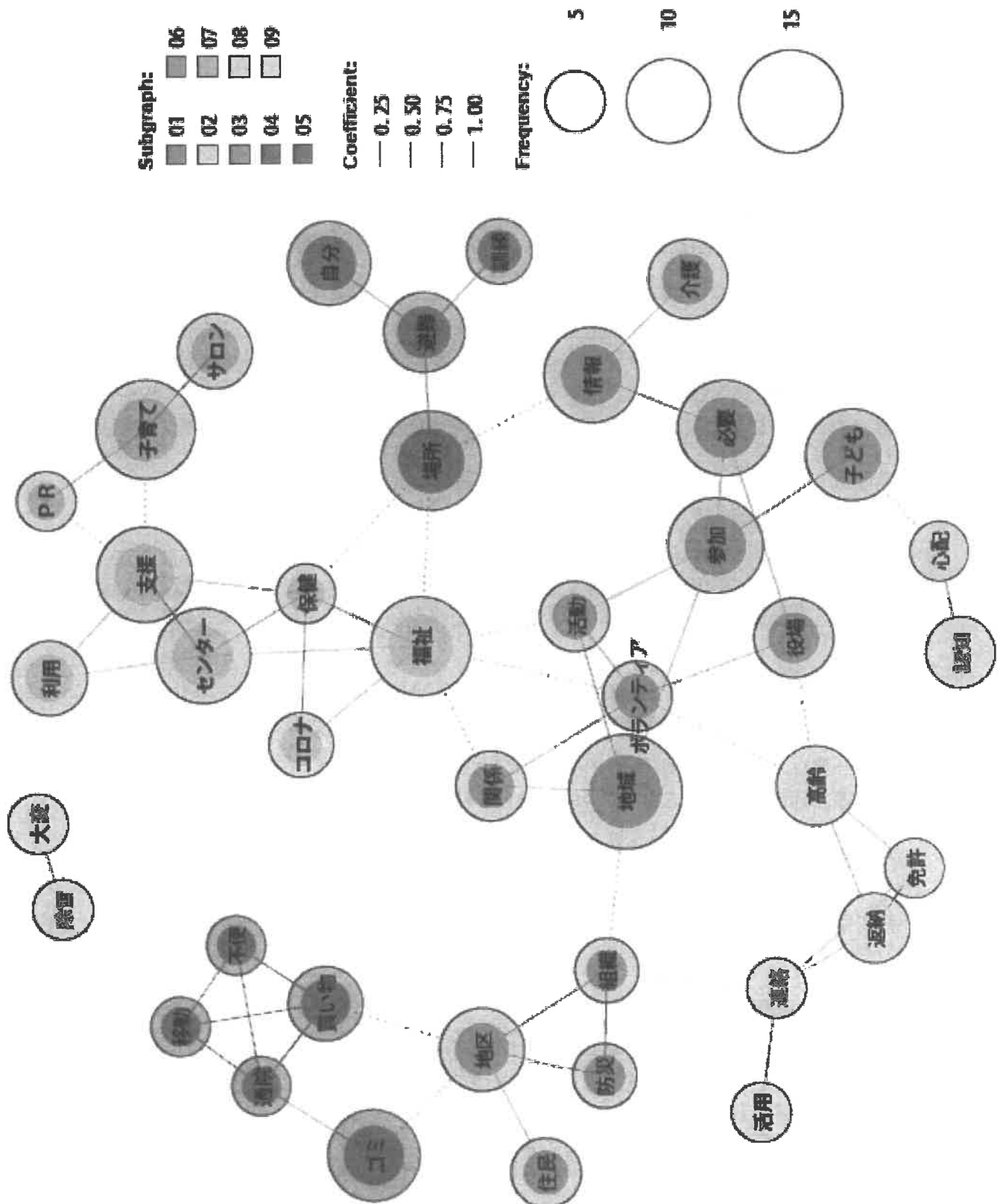
<1次計画の評価>

- ・広報媒体を活用し、定期的に情報発信を行い、周知の強化を図る必要がある。
- ・いきいきサロンをはじめ、社協や町等が実施している事業を可視化し、住民に情報提供することで参加しやすくなる。

課題の可視化

ヒアリングやアンケートから挙げた課題の中で、よく出たキーワードを可視化した図です。大きな丸ほど、その言葉が使われています。

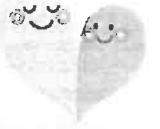
また、丸と丸を結ぶ線が濃いほど、キーワード同士の関係性が強くなっています。



3. 策定委員名簿

No.	役 職	氏 名	推 薦 団 体
1	委 員 長	青 木 茂	田上町社会福祉協議会 (新潟医療福祉大学准教授)
2	副 委 員 長	川 口 伊津子	田上町民生・児童委員協議会
3	委 員	吉 田 陽 子	田上町ボランティアセンター
4		田 巻 昌 良	田上町老人クラブ連合会
5		郷 芳 子	学校地域コーディネーター (田上小・田上中)
6		古 川 今日子	学校地域コーディネーター (羽生田小)
7		渡 邊 忠 一	田上町区長会
8		武 田 満 雄	田上町区長会
9		金 子 隆	田上町商工会
10		関 川 博 純	田上町手をつなぐ育成会
11		山 本 秀 子	田上町民生・児童委員協議会
12		前 田 路 子	田上町役場保健福祉課
13		名 古 屋 利 夫	田上町社会福祉協議会
	事務局 田上町社会福祉協議会 地域福祉課		

順不同・敬称略



計画策定を振り返って

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年となりました。第2次田上町地域福祉活動計画の策定過程においても三密を回避するため、地域における住民懇談会の開催を見送り、策定委員会のほとんどが書面による審議とならざるを得ず、対面による審議が十分に行えませんでした。しかし、このような状況においても社協事務局は、町民の生の声を計画に反映させるため、各種団体等へのヒアリング調査を実施し、ニーズを把握しました。また、策定委員からはそれぞれの立場から見える地域課題など忌憚のない意見が寄せられ、計画に反映させることができました。今後は、この計画の存在と内容が町民ひとり一人に浸透し、着実に実行性を上げ、今以上に安心して住み良い町となるよう祈念してやみません。新型コロナウイルス感染症と人類との闘いに終わりは見えませんが、新しい生活様式を踏まえながら地域福祉活動が積極的に展開されることを期待します。

令和3年8月

田上町地域福祉活動計画策定委員会

委員長 青木 茂

(新潟医療福祉大学准教授)

第2次田上町地域福祉活動計画

令和3年8月発行



発行：社会福祉法人 田上町社会福祉協議会

〒959-1503 新潟県南蒲原郡田上町大字原ヶ崎新田 3071 番地
TEL 0256-57-5877 FAX 0256-57-5073

田上町社協

